

# CASBEE神戸ver.3

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	コスモピューター神戸	階数	地上6F
建設地	神戸市中央区港島南町7丁目1-17、1-59	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	250 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2024年3月22日
敷地面積	12,213 m <sup>2</sup>	作成者	KBI計画・設計事務所 加藤 陸
建築面積	4,034 m <sup>2</sup>	確認日	2024年4月9日
延床面積	21,291 m <sup>2</sup>	確認者	KBI計画・設計事務所 島田 照実



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.6</b> ★★★★★☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★</p> <p>環境品質 G</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆ 100%超: ☆</p> <p><b>標準計算</b></p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 <b>Qのスコア = 3.0</b>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 2.7</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 3.5</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 2.8</p>
LR 環境負荷低減性 <b>LRのスコア = 3.7</b>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 4.2</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 3.3</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.4</p>

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
<p>Q-2/1.1.3 バリアフリー計画</p> <p>4.0</p>	<p>Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振</p> <p>3.0</p> <p>Q-2/2.4 信頼性</p> <p>2.6</p>	<p>Q-3/2. まちなみ・景観への配慮</p> <p>3.0</p>
<p>配慮の概要</p> <p>身障者用トイレを、最も利用者が多い6階に設け、最上階への動線(屋外⇄エントランス⇄EV⇄廊下⇄身障者トイレ)を含めて、利用者の利便性に考慮した。</p>	<p>配慮の概要</p>	<p>配慮の概要</p>
<p>その他の配慮事項</p>		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)  
コスモビューティー神戸

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築  
■評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.31</b>			<b>2.7</b>
<b>1 音環境</b>						<b>2.8</b>	0.15			<b>2.8</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40			
1.2 遮音						<b>2.2</b>	0.40			
1 開口部遮音性能						<b>3.0</b>	0.60			
2 界壁遮音性能						<b>1.0</b>	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音		天井=岩綿吸音板、床=タイルカーペット				<b>4.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.6</b>	0.35			<b>2.6</b>
2.1 室温制御						<b>3.0</b>	0.50			
1 室温						<b>3.0</b>	0.38			
2 外皮性能						<b>3.0</b>	0.25			
3 ゾーン別制御性						<b>3.0</b>	0.38			
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20			
2.3 空調方式						<b>3.0</b>	0.30			
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.6</b>	0.25			<b>2.6</b>
3.1 昼光利用						<b>1.8</b>	0.30			
1 昼光率						<b>1.0</b>	0.60			
2 方位別開口										
3 昼光利用設備						<b>3.0</b>	0.40			
3.2 グレア対策						<b>3.0</b>	0.30			
1 昼光制御						<b>3.0</b>	1.00			
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.15			
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25			
<b>4 空気質環境</b>						<b>2.9</b>	0.25			<b>2.9</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.50			
1 化学汚染物質		使用建材はほぼ全面にF☆☆☆☆を使用している				<b>4.0</b>	1.00			
4.2 換気						<b>2.3</b>	0.30			
1 換気量						<b>3.0</b>	0.33			
2 自然換気性能						<b>3.0</b>	0.33			
3 取り入れ外気への配慮						<b>1.0</b>	0.33	<b>1.0</b>		
4.3 運用管理						<b>1.0</b>	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視						<b>1.0</b>	0.50			
2 喫煙の制御						<b>1.0</b>	0.50			
<b>Q2 サービス性能</b>							<b>0.30</b>			<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.2</b>	0.40			<b>3.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>2.6</b>	0.40			
1 広さ・収納性						<b>1.0</b>	0.33			
2 高度情報通信設備対応						<b>3.0</b>	0.33			
3 バリアフリー計画		6F(事務所階)への身障者トイレ配置				<b>4.0</b>	0.33			
1.2 心理性・快適性						<b>3.3</b>	0.30			
1 広さ感・景観		天井高さ2.7m以上、かつ、外壁面一面を開口部としている				<b>4.0</b>	0.33	<b>1.0</b>		
2 リフレッシュスペース		食堂休憩室を設置している				<b>5.0</b>	0.33			
3 内装計画						<b>1.0</b>	0.33			
1.3 維持管理						<b>4.0</b>	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		基材を保護できる仕上げを採用している				<b>4.0</b>	0.50			
2 維持管理用機能の確保		各トイレへの掃除用具庫と掃除用流しの設置				<b>4.0</b>	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.0</b>	0.30			<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>3.0</b>	0.80			
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.3</b>	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		コンクリートの計画共用期間=標準(JASS5/65年)				<b>4.0</b>	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						<b>2.0</b>	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		主要仕上げ材の化粧ケイカル板は15年更新				<b>4.0</b>	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		配管はすべてC以上を使用				<b>4.0</b>	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.20			
2.4 信頼性						<b>2.6</b>	0.20			
1 空調・換気設備						<b>3.0</b>	0.20			
2 給排水・衛生設備						<b>2.0</b>	0.20			
3 電気設備						<b>3.0</b>	0.20			
4 機械・配管支持方法						<b>3.0</b>	0.20			
5 通信・情報設備						<b>2.0</b>	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.4</b>	0.30	-	-	<b>4.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高4.08m~8.30m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=27.44/3,904.21=0.007	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
			300kg/m2~1,000kg/m2				
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.6</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	天井フトロ内への設備ラック設置と適切な天井点検口の配置	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	天井フトロ内への設備ラック設置と適切な天井点検口の配置	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	設備の予備スペースあり	4.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.39</b>	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.7</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.2</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			-	-	-	-	-
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.13	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			[BEI][BEIm] = 0.00		<b>5.0</b>	0.63	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水			節水コマ及び、擬音設備便器		<b>4.0</b>	0.40	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.4</b>	0.60	-	-	<b>3.4</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.22	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			躯体への直接仕上なし、躯体への配管類打ち込みなし		5.0	0.22	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			ライフサイクルCO2排出率が27%		<b>5.0</b>	0.33	<b>5.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	運送経路、歩行経路を確保	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.3</b>	0.33	-	-	<b>2.3</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>1.6</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>2.3</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		2.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	